The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

サキャ派のガナチャクラ儀軌と mNgon par rtogs pa

静　春樹

はじめに

本稿は，サキャ派が作成したガナチャクラ（以下，聚輪）儀軌の幾つかと同派が構想する仏教の全体系との関連を考察する論考の一部である．サキャ派五祖の内で，聚輪儀軌の題名をもつ単独テキストを著しているのは，第三祖タクパゲンツェン，第四祖サキャパンディタ（以下，サパン），第五祖パクパの三人である．先ず，サパンが自らの『聚輪儀軌』を著す契機となったタクパゲンツェンの Tshogs 'khor 'bring po[1]（以下,『中篇』）に対する経緯を述べる．次に，タクパゲンツェン著 rGyud kyi mngon par rtogs pa rin po che'i ljon shing（以下，『宝樹』）[2] の一部分を構成する「飲食の三昧耶」の科文を出し，実際に設営されて所作が為される集団的な行（*caryā*）である聚輪がサキャ派の構想する仏教体系（*grand map*）にもつ位置づけを示す．

1．サパン『聚輪儀軌』およびタクパゲンツェン『中篇』の科文

先ず，サパン作『聚輪儀軌』から，同書が作られた経緯を述べる本文末尾の文言および奥書を引用する．

> 以上で，無上瑜伽タントラと成就者たちの論書とグルたちの口訣に依拠してから，法王である吉祥なる大サキャパ（タクパギェンツェン）の作法次第を釈し竟る．無垢なるタントラの中で説かれたとおりの意味を得成就者であるグルより相承して，人の姿を具えてサキャ〔の地〕に住された大持金剛であるそのお方が纏めてお説きになった少し明瞭でないその善説を，要望する者たちに応えて，そのお方の御足の塵を恭しく頂いた Kun dga' 〔rgyal mtshan〕という名をもつその者が明瞭にしました．（略）
> 無上瑜伽の聚輪の実践次第．憧幡の辺際までも荘厳なさる法王（タクパギェンツェン）がお作りになった少し明瞭でないその著作を，要望する者たちに応えて，吉祥なるサキャパンディタが明瞭にされたものである[3]．

次にサパン作『聚輪儀軌』[4] 本体部分の科文を以下に挙げる．

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

0. 敬礼文と概義の開示 127a4
1. 聚輪の方規 127a6
1 時 127a6
2 場所 127b1
3 仲間（grogs，集会者） 127b3
4 資具 127b3
5 儀軌 127b3
1. 前行 127b4
(1) 会処を荘厳する所作 127b5
(2) 資具の準備 128a2
(3) 金剛阿闍梨の入住 128b1
(4) 門衛阿闍梨への懇願と入住 128b2
(5) 本尊瑜伽の懇請 129a1
(6) 百字真言による心浄化 129a3
2. 正行 129a5
(1) 広大供養（外供養） 129b1
(2) 甘露による智薩埵供養（内供養） 130a5
(3) バリによる生類供養 130b3
(4) 飲食による瑜伽者供養 130b6
(5) 歌舞によるダーキニー供養 133a1
(6) 俱生智による身曼荼羅供養（性瑜伽） 133a5
3. 随行 133b2
(1) 生類への残滓施与 133b3
(2) 智慧ダーキニーへの讃嘆 133b5
(3) 違犯した三昧耶の修復 134a5
(4) 誓願の奏上 134b2
(5) 曼荼羅の奉送 135a1
(6) バリ供養 135a3
6 目的 135a5
2. 論難者への論駁 135b3
3. 儀軌の区分（人・時・本尊瑜伽・目的・供養の対象） 138a5

次に，タクパゲンツェン作『中篇』の科文を出す．

1. 敬礼文と概義の開示 109a4
1 時 109b1
2 場所 109b3
3 資具 109b3
4 儀軌 110a2
1. 前行 110a2

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

2. 正行 110b3
(1) 外供養 110b3
(2) 内供養（甘露供養） 110b4
(3) バリ供養 111a4
(4) 聚会供養 111a6
(5) 歌舞供養 112a2
(6) 真実供養（性瑜伽） 112a4
3. 随行 112a4
5 目的 112b6
2. 願文 113a1
3. 奥書 113a3

2．聚輪と mNgon par rtogs pa

ここで問題となるのが，タクパゲンツェン作『中篇』に見られる次の文言である．彼は冒頭の「概義の開示」に当たる項目の最後で，「そこで，mNgon par rtogs pa は五つであって，時と場所と資具と儀軌と目的である」と明言している[5]．現実の設営と所作をもつ集団的修法である聚輪において，場所と時は枠組であり，資具は具体的な事物（*dravya*），儀軌は時系列で進行すべき行為（*kriyā*）の集積である．さらに聚輪を構成する参加者は生身の男女瑜伽者であることを前提としていることは，インド撰述の聚輪儀軌の多くが参加者の資格について明確な制限を課し，聚会での厳しい行儀作法を要求することからも明らかである．聚輪それ自体は本来的に修習・観想としての mNgon par rtogs pa ではあり得ない事象である．それでは，『中篇』がここで mNgon par rtogs pa と明記している意味は何であろうか．タクパゲンツェンは，『ヘーヴァジラタントラ』〈飲食品〉の註釈中で以下のように述べている[6]．

〔この章品が説く〕第二の内容である聚輪については，概義（spyi don）は六つであって，場所・時・仲間・資具・儀軌・目的である．儀軌についても前行と正行と随行の三つにつきそれぞれ六〔ユニット〕で〔合計するとユニットは〕十八となすものと，名称の意味については仲間と mNgon par rtogs pa する本尊瑜伽と目的〔など〕で区分すれば八つとするものも厳密に釈すべきであるが，今はタントラの mNgon par rtogs pa として見るべきである．

引用から，タクパゲンツェンが mNgon par rtogs pa に概義（spyi don）の意味と現観（*abhisamaya*）の文脈での意味の二つをもたせていることがわかる．つまり，聚輪儀軌の舞台を構成する六つの枠組と修習する本尊瑜伽に同じ mNgon par rtogs pa の語が用いられている．先の『中篇』からの引用と重ねると，ここで言う「タ

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

ントラの mNgon par rtogs pa」は，チャートを作成する際の枠組・概念区分の意味を担っていると理解できる．また『宝樹』の約 80 パーセントを占める第四章が「タントラの mNgon par rtogs pa」の章題の下に，金剛乗の見・修習としての現観・律儀と三昧耶の三つすべてを包摂する広大な体系図を提示していることから，『宝樹』の具名 rGyud kyi mngon par rtogs pa rin po che'i ljon shing に出る mNgon par rtogs pa はまさに金剛乗からする全仏教の grand map を指す用法となっている．このように現代的視点から見て，タクパゲンツェンが mNgon par rtogs pa の語を多義的に使用していることに留意し，術語 mNgon par rtogs pa の意味論的分析を進める必要がある．

『宝樹』中の「飲食の三昧耶」[7] の科文は以下の通りである．

飲食の三昧耶	111a4
1　通常の飲食の三昧耶	111a5
1. 甘露の丸薬成就の説示	111a5
2. 所依の説示	111b3
3. 利益の説示	111b3
2　殊勝な飲食の三昧耶（聚輪）	111b4
1. 名称の意味[8]	111b5
(1) 人士による区別	
(「聚輪」・「男性勇者の饗宴」・「女性勇者の饗宴」)	111b5
(2) 瑜伽による区別	
(尊格の数と相応しない場合は「親しい者の集会」)	111b6
(3) 時による区別	
(護摩・善住式の時は「乳粥の飲食」)	111b6
(4) 目的による区別	
(尊格の数と同人数で調伏の場合は「仏の舞踏」)	112a1
(5) 供養の対象による区別	
(「Rig ldan ma 供養」「クマーリーの齋」)	112a3
2. 儀則	112a2
1　場所	112a3
1. 初業者の場合	112a3
2. 心堅固（煖位）を得た者の場合	112a4
2　時	112a5
1. 通常の時	112a5
2. 殊勝な時（タントラ聴聞・講釈・善住式 etc）	112b1
3　資具（肉と酒は不可欠）	112b3
4　人士（gang zag）	112b5

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

1. 初業者 112b5
2. 心堅固を得た者 113a2
3. 心の大堅固を得た者 113a2

5 儀軌（三区分） 113b1

1. 前行（六区分） 113b2
(1) 住居の荘厳 113b2
(2) 内外供物（飲食物・バリ）の準備 113b2
(3) 金剛阿闍梨の入住 113b2
(4) 青杖（門衛阿闍梨）への懇願と会衆の入住 113b3
(5) 本尊瑜伽の要請 113b3
(6) 百字真言の読誦 113b3

2. 正行
（「我生起」or「我生起」「現前生起」両方での曼荼羅供養） 113b3
(1) 広大供養（外供養）による三摩地曼荼羅の満足 113b5
(2) 甘露供養（内供養）による胸の曼荼羅の満足 113b6
(3) バリ供養による護法・守護神の満足 113b6
(4) 飲食（内護摩）での三昧耶をもつ者（瑜伽者）の満足 113b6
(5) 歌舞供養によるダーキニーの満足 114a1
(6)〔真実供養（性瑜伽）〕[9] （記述なし）

3. 随行（六所作） 114a1
(1) 金剛歌の詠唱と吉慶讃の読誦 114a1
(2) 残滓のバリ施与 114a2
(3) 三昧耶の修復（百字真言の読誦） 114a2
(4) 所願成就のための誓願奏上 114a2
(5) 堪忍の懇願と還着の奏上 114a2
(6) 守護と会処の後始末 114a3

6 目的 114a3

1. 根本目的（vidyārāja の成就） 114a4
2. 随機目的（長寿・無病 etc） 114a4

『中篇』が，その題名どおり詳細な記述でないことは，弟子のサパン作『聚輪儀軌』と比較すれば一目瞭然である．サパンは師匠の「少し明瞭でないその善説」を明瞭にし大幅に増広した．このサパンの著作を観想主体のマニュアルにして祖述したのがパクパの聚輪儀軌六本[10]である．またサパンが明確にした「飲食と性瑜伽」の問題を Vimalaprabhā の観点も付加して論じたのが，ゴルチェン・クンガザンポ（1382–1456）の聚輪儀軌『普賢遊戯』[11]である．

『宝樹』では，聚輪が「飲食の三昧耶」の内の「殊勝な飲食の三昧耶」として位置づけられ，インドおよびチベットで行われていたであろう聚会の全体像が整

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

理されている．ここから，サパンの『聚輪儀軌』は『宝樹』の詳細な上記チャートの掌の内にある構成となっていると言える．それは当然ながらパクパとゴルチェン作の聚輪儀軌の場合にも当てはまることである．

つまり，師匠の作った聚輪儀軌『中篇』は弟子によって問題点が指摘され，面目が一新されたが，その弟子や末弟子たちの儀軌も師匠の構成した金剛乗の体系図の内に忠実に収まっている．因みにプトゥンの聚輪儀軌『大楽遊戯』も基本的にタクパゲンツェンの上記チャートを踏襲している．つまり，『大楽遊戯』は，精緻にして広大なサキャ派の mNgon par rtogs pa 体系の一部である「飲食の三昧耶」のフォーマットに会わせてインド撰述の諸聚輪儀軌を割り振った構成であるとの表現も可能である．

インド仏教は声聞乗・波羅蜜乗・金剛乗の全体を通して三学（戒・定・慧）を契機としてもつ．金剛乗に特化すれば，波羅蜜乗とは不共な見（*dṛṣti*）が「慧」に，修習（生起・究竟の二次第に基づく観想 *bhāvanā*）が「定」に，遵守すべき行儀・生活規範・修行の実際の営為のすべてを含む三昧耶である行（*caryā*）が「戒」に相当する．タクパゲンツェンは聚輪を「飲食の三昧耶」として金剛乗の「戒」の枠内に位置づけていることが理解されるのである．

1）SKKB vol. 3 No. 19 Ja. 109a4–113a4.　2）SKKB vol. 3 No. 1 Cha. 1–139a6., 70 葉からなるタクパゲンツェンの主著の一つである．　3）SKKB vol. 5 No. 5 Tshogs 'khor cho ga.　4）SKKB vol. 5 No. 51 pp. 358–364, Ja 帙.　5）サパン作『聚輪儀軌』では相当箇所は ji ltar bya ba'i cho ga/　6）SKKB vol. 3 No. 9 brtag pa gnyis pa'i rnam par bshad pa ma dag pa rnams 'joms par byed pa'i rnam 'grel dag ldan, Cha. 313b1–4.　7）『宝樹』Cha. 111a4–114a6.　8）SKKB vol. 3 No. 2 rGyud sde spyi'i rnam gzhag dang rgyud kyi mngon par rtogs pa'i stong thun sa bcad（sTong thun sa bcad と略）Cha. 159b1 では，(2) と (3) の順番が入れ替わっている．　9）『宝樹』Cha. 114a1 には，tshim pa drug po dngos so とのみ記述されている．　10）SKKB vol. 6 No. 52, 54, 90, 97, vol. 7 No. 113, 123.　11）SKKB vol. 10 No. 96 Tshogs kyi 'khor lo'i cho ga kun bzang rnam rol Ga. 72a2–76b1.

〈略号〉

SKKB: *Sa skya pa'i bka' 'bum*, Bibliotheca Tibetica compiled by bSod nams rgya mtsho, Toyo Bunko, 1968.

〈キーワード〉　タクパゲンツェン，サキャパンディタ，ガナチャクラ（聚輪），現観

（高野山大学密教文化研究所研究員，博士（仏教学））

NII-Electronic Library Service